モニター会議概要

当研究所では、現地の実態を的確に把握し業務推進に活かすため、新進気鋭の農業者に現地モニターを委嘱し、さまざまなご意見を伺っておりました。

昨年度につづき今年度も平成三〇年一一月三〇日に札幌市内にて開催、現地モニターの方々と意見交換を行うことができました。

会議中盤に北海学園大学の宮入隆教授に「これからの北海道農協の取り組み課題―第二九回JA北海道大会を踏まえて―」との題目で講演をしていただきました。

以下その会議の概要を紹介いたします。

現地モニター（敬称略・五十音順）

・美瑛町　内田達也（JAびえい販売部生産振興課）
・天塩町　宇野剛司（酪農経営）
・新篠津村　大塚早苗（有機野菜・畑作・稲作経営）
・美唄市　貞広樹良（稲作・畑作・野菜経営）
・京極町　高木智美（畑作経営）
・名寄市　中野康則（稲作・施設野菜経営）

一般社団法人　北海道地域農業研究所

・副理事長・所長　飯澤理一郎
・専務理事　伊藤則明
・常務理事　入江千晴
・事務局長　片岡省二
・研究部長　及川敏之
・研究次長　鷹田秀一

〈コーディネーター〉
・顧問　黒澤不二男

※北海学園大学　経済学部
教授　宮入隆

飯　澤　皆さんお久しぶりです。

今年は日照不足や台風等の被害に遭い、米の作況は九〇と平成二一年産以来の「不良」となりましたし、酪農では地震とブラックアウトで大変な年であったかと思います。

今年も蘭越で行われた「米―1グランプリ」へ行ってきました。この天候を考えたら北海道は厳しいだろう、都府県も高温障害で大変ではないかと覚悟して出ましたが、あにはからずや、非常に良いお米ができているということでした。皆さんのような非常に優秀な農家の方々は、こうした気象変動に対抗できるだけの知恵と力を持っていることを、その時私は確信いたしました。

飯澤所長

本日は、今年の自然災害への対応、リスク管理の問題、あるいは、先日開かれたJA北海道大会についてどのようにお考えになっているかを中心として、忌憚のないご意見をいただきたく思います。よろしくお願いいたします。

黒　澤　皆さんこんにちは。

平成三〇年度は春先の大雨や日照不足、相次いだ台風の影響、それから地震。場合によっては二重苦三重苦という方もいらっしゃったと思います。その一方で、所長のあいさつにもありましたように、現地に行くとかなり条件が厳しい中でも善戦しておられる人がいるというお話もうかがいました。北海道農業の底力は大きく、農業生産も、一昨年のようなことはありませんけれども、かなり維持している部分がありますので、その辺り皆さん方の農場のお話をお聞きできればと思います。

早速ですが、モニターの方々から「我が家の農業経営を振り返って」あるいは、「我が管内の組合員の方々の状況を振り返って」お話をしていただきたいと思います。では、中野さんからお願いします。

中　野　名寄市はもち米の生産地で、私ももち米を一〇ha作っていますが、今年はやはり悪いです。「はくちょうもち」は反当たり八・五俵が平均ですが、今年は七俵少しでした。六月が寒くてイネが分けつせずに、そのまま育ったという感じでした。ミニトマトも日照不足の影響で、味や糖度はまあまあだったのですが、収量が落ちました。

地域では、地震で酪農家への影響が少し

ありました。もち米農家の場合は、収穫期で乾燥機が動いている時にブラックアウトになっていたら大変でした。もっとも、ブラックアウトは特殊なことですし、二〇〇ボルトの乾燥機を動かすにはけっこうな発電機が必要です。水田農家が対策できることではないと思います。私は発電機を持っていなかったので、今年買いました。あるところとないところでは全然違います。

黒　澤　そうですね。必ずしも乾燥機を動かすということだけではなくて、情報がカットアウトされるということもありますからね。ありがとうございました。

それでは宇野さん、お願いします。

宇　野　天塩では一番牧草の刈り取りが六月あたまから始まりますが、今年はその時期に雨が降り続き、一番草が非常によくない状況でした。水分が非常に多く、おそらくほとんどの酪農家で普段の調製作業の水分量ではない状態でした。うちではいつも五月終わりくらいから刈りはじめるので、一部は非常にいいものがとれましたが、草地が一〇〇ha以上あるので、六月で終わらず、七月に入ってからも作業が続きました。伸びた状態で、栄養価の低い草が多かったので、今年の冬の餌の管理の対策を考えなければ、乳量や価格に影響する状況にあります。

宇野剛司さん

地域では高齢化に伴って離農がどんどん進んでおり、農協と組合員七戸が出資して農業法人を設立し、間もなく動き出そうとしています。四〇〇頭くらいの規模のロボット牛舎を作っています。ただし、それに参加する組合員も後継者がほぼいません。八割方六〇代の酪農家なので、あと一〇年もするとその方たちも作業ができない状況になるわけです。その法人自体も今後作業員の不足をどうするかが大きな課題として残っています。また、地域の組合員五～六戸でＴＭＲセンターを作り、この冬から稼働します。　離農で空いた乳量の枠や草地を少しでも使うため、ＴＭＲセンターや複数戸法人など組織的な対応が段々増えているのが今の天塩の状況です。

また、地震による被害はありませんでしたが、私のところではその後の停電によって一日搾乳ができませんでした。夜中に発

電機を手配して、翌朝からは搾乳できましたが、乳房炎が発生してしまいました。地域の酪農家も一日から一日半搾乳できず乳房炎が多発しました。

現在五〇頭ほど搾乳しており、徐々に乳房炎は治っていますが、未だに影響は残っています。乳房炎が完治するのはもう少し先と思います。乳質が悪くなった牛を淘汰した酪農家もいます。牛乳も、四日間乳業メーカーが動かず出荷できなかったので、実質四日分の牛乳が廃棄となり、かなり大きな損害になりました。

天塩には風力発電がかなりあるので、それが地域に回ればと思いましたが、売電専用で地域に回せないという状況でした。その辺は今後対策してほしいと要望いたします。

黒　澤　工場の受け入れ状況はどうでしたか。

宇　野　幌延や豊富もそうですが、工場自体はおそらく二日目には通電したと思います。停電の影響で機械が誤作動したらしく、通電してもすぐには稼働できなかったと聞いています。そのために五日目の朝からようやく出荷開始という状況でした。

黒　澤　乳房炎の影響は、当初マスコミ等でも大きく取り上げられましたが、その後たいしたことないという傾向の記事が多くなりました。しかし今お聞きすると、やはり尾を引いていることがわかり、ニュースでは報道されない、貴重な情報です。ありがとうございました。

では、次に高木さん、お願いします。

高　木　春先に出荷するアスパラなどは去年より良かったのですが、その後の長雨の影響で、ニンジン・ダイコンなどの根菜類は打撃を受け、かなり悪かったです。湿

害としか言いようがないです。農協管内全体でも、イモは「男爵」が小粒であり、来年の種イモの確保が厳しい品種もあります。

地震があったのはちょうどニンジンの収穫・出荷の最盛期でした。共選施設なので、農家は困らなかったのですが、共選施設の休止や、ＪＲやフェリーが動かなくなった影響がありました。関東向けに日数がかかったため、向こうの暖かさでニンジンの品質が大きく低下してしまいました。産地の信頼にキズがついたのではないかと心配しています。

いま地域では、コントラを取り入れている段階で、ビートの収穫から始めているようです。バレイショの生産組合ではＪＧＡＰの取り組みが来年から始動します。参加する人たちは管理項目に沿って取り組み始めています。大手スーパーから「これからはＪＧＡＰです」と言われたようです。

黒　澤　お話を聞いていると、表面に出ない問題というのはたくさんありますね。経済産業省が中小企業等に「非常時に対応する経営を持続する仕組み」をそれぞれの企業で作るよう勧めています。このようなことを農業サイド・農場サイド、あるいは農協系統の工場や施設で綿密に取り組んでいる例はあまり聞いていませんでした。私は農業サイドでも一般企業に準じた形でこうした仕組みをもっと重視していくべきだと考えています。

それでは、貞広さん、お願いします。

貞　広　私のところも作柄は良くなく、米・麦・大豆・ソバ全て昨年を下回っています。米は八品種作っていますが、収量はどれも七俵台でした。特に大豆が一番悪く、昨年の半分くらいでした。

私のところでは、四月に岩見沢農業高校の卒業生を新卒で採用し、半年ほど経ちましたが、一生懸命仕事を覚えてもらっているところです。当初、募集は男子でと考えていましたが、女子からの応募となり、できるかどうか心配しました。しかし、一通り経験させてみると、意外とセンスもあり、自分が初めて機械に乗った時よりも動じていないという印象も受けています。

通年雇用のため、冬期も今まで以上に仕事を確保する必要があります。うちでは冬に、味噌作りや米粉を使った体験を行って

貞広良樹さん

いますが、それにプラスして、きちんとした商品として販売する商品開発も始めたいと思っています。

黒　澤　人を雇った場合に、仕事を年間恒常的に準備することが経営者のこれから一つの課題でもあるとお聞きしています。農場作業だけではなく、加工部門のあるところは冬期間も仕事を作ることができます。そういう意味では、大変に良いかなと思います。

それでは、大塚さんお願いします。

大　塚　私のところでは有機野菜を二五種類くらい作っていますが、その理由は、仕事のピークを均していくためです。スタッフはパートさんを入れると二五人ほどいますので、常時仕事配分し、忙しい時に夜中まで残業させることのないよう、仕事を平準化させるようにしています。

大塚早苗さん

また、今年のように天候が不安定だったときに、いい作物もあれば悪い作物もあって、トータルではまあまあだというように持っていくためもあります。

今年は三・五haくらいサツマイモを作りましたが、春の寒さで定植した段階で苗が大量に枯死するなど厳しかったです。ミニトマトが四二棟ありますが、例年暑くなると高温障害が出るので遮光します。今年は八月も雨が多くて暑くないから、遮光も一週間くらいで取ってしまう状況でした。ミニトマトはお盆くらいに収穫のピークが来ますが、今年は遅れて九月の一週目、二週目にピークが来ました。結果的には、ハウス四棟増やしていましたが、昨年より一五%くらい良かったです。その代り、根菜類が厳しく、ニンジン、ジャガイモもダメだし、今言ったようにサツマイモも少し下がりました。お米もダメでした。皆さんと一緒ですね。

地域のことですが、新篠津は札幌圏ということもあって、比較的三〇代～四〇代の後継者がいます。親世代が団塊の世代が多く、団塊世代のお父さん、お母さんと三〇～四〇代くらいの息子さんの経営が多いです。その息子さんが結婚していないと、お父さん・お母さんが高齢化し、亡くなると、結局息子さん一人になる所も地域で散見されています。そうなると、田植や稲刈りはどうするのか、という所が年に数軒出てきて、これから続出してくるのではないかと

いう状況です。それを考えると、人をさらに雇用していくのはこれからの時代難しくなってくると思います。新篠津村は稲作がほとんどなので、ドローンを使って施肥をするとか、GPSの付いた田植機を使うといった効率化を図っていく必要があると感じます。米の育苗を地域で共同でやっています。各家庭から二人ずつ人を出すという形でやっていますが、二人出せないところも多くなってきて、結局、うちのスタッフをたくさん出している状況になっています。

台風でハウス四棟全壊、ビニールや納屋の屋根・壁が飛んだり等の被害がありました。一番きつかったのが停電で、うちは四日間続いたので、おそらく北海道ではかなり長い方でした。一〇〇ボルトの発電機はありましたが、業務用の冷凍庫・冷蔵庫がたくさんあり、そちらは二〇〇ボルトで、その発電機は持っていなくて困りました。縁があって発電機を借りることができて大事には至らずに済みましたが、その後すぐトラクターに付けて回す二〇〇ボルトの発電機を手当てしました。ハウスの開閉は全部電動ですが、開け閉めが最初スムーズに行かず、トマトが焼けてしまいました。それで一〇〇ボルトの発電機を三台にして、そういう時に困らないように対策しました。

黒　澤　サツマイモは石狩北部や空知南部では最近増えてきています。暖地系作物で当初北海道には向かないと言われていましたが、今は非常にとれるようになっています。かなり耐冷性が高い品種を作っているのですか。

大　塚　寒冷地用の品種があるのかどうかは分からないのですが、「紅あずま」や「紅はるか」、「玉豊」だとか、最近注目されている「シルクスイート」など六品種作っています。「安納芋」は厳しいですね。積算温度が必要なので時間はかかりますが、茨城県あたりとそんなに変わらない量はとれます。

黒　澤　それでは内田さん、JAびえい管内の状況だとか、気象災害対応等で特徴的なことをお願いします。

内　田　管内では今年、一一、六〇〇haほど作付しており、農家戸数は七四〇戸ほどです。今年度の作柄は皆さんが仰ってい

内田達也さん

たとおり、畑作全般に収量減でした。麦については約三分の一の三、〇〇〇haくらい作付けしていますが、計画対比で八割しか収穫できませんでした。小豆につきましても、半作、二俵台しかとれない状況でした。比較的良かったのはハウス、園芸作物で、個人差はありましたが、トマトについては、九州のトマトがまだ残っていた最初の頃は安くて心配しましたが、後半は単価が上がり、収量もそれなりにあったので、過去最高の売上高になりました。

スイートコーン、カボチャ、バレイショなど加工野菜が増えてきていますが、スイートコーンとカボチャ、ブロッコリーといった野菜が一番ダメージを受けました。

ビートやバレイショは「コントラクター事業」が動き始めています。バレイショでは、生産者が他の生産者の作業を引き受ける「生産者コントラ」と農協が収穫機を導入して作業を行う二つのパターンがあります。バレイショでは、農協がバリトロンという機械を昨年導入して、今年一二二haの収穫作業を無事に終えています。

酪農家は二〇戸ほどありますが、停電時には農協が発電機を持っていましたので、全部貸し出して対応しました。しかし廃棄した牛乳もあり、満足な対応はできませんでした。農協では、発電機を持っていましたが、個人で発電機を持っている所は小さいものしかなくて、生産者の方はまだそういうリスク管理は十分ではない状況です。生産者から発電機の購入に国が助成して欲しいという要望が一部であがっています。

※バリトロン(Varitron)：ドイツ・グリメ社(GRIMME Landmaschinenfabrik GmbH & Co.kg)製の大型自走式ハーベスター

黒　澤　どうもありがとうございました。

皆さん方からご紹介いただきましたが、この後、モニターの方々同士でご質問なりご意見等ありましたら、若干意見交換をしたいと思います。いかがですか。

中　野　大塚さんから効率化の話がありましたが、私の名寄地域でも、三軒で一台ドローンを入れました。三軒に一台なので、今四台か五台くらい入っていると思います。

農薬散布に使っていまして、ワンフライトで一ha分くらいです。ドローンだと音もしないし、安全装置がかなり進化しているのでほぼ墜落しません。農薬散布量の無駄

中野康則さん

も少ないです。電池の性能が上がれば、これからドローンの普及は加速度的に進むだろうと思います。そのうちに直播とか、農薬、空散剤の進歩によって、今まで使えなかったような作物でもドローンでできるようになっていくと思います。ドローンは一人で一台動かしていますが、Youtubeなどで見ると、中国では二〇台を一度に飛ばして、スプレイヤーを使わずに全てドローンでやっているようです。一人で何一〇台も完全自動で動かして、次から次へと電池交換し農薬を補給していく。多分日本もそういうふうになっていくと思います。

黒　澤　稲作地帯でのドローンの利用について、貞広さんの美唄ではどうですか？

貞　広　美唄ではそんなに多くは普及していませんが、何台かは入っています。まだヘリの方が多いと思います。でもこれからは増えるかもしれません。機械の値段もヘリよりだいぶ安い。でもバッテリーがけっこう高くて、予備のバッテリーをたくさん買わなければならないと聞いています。

中　野　充電しながらやっていますが、やはり間に合わない時があります。急速充電でも間に合わなくて、充電待ちで一五～二〇分かかる。ただそれも「全固体電池」というのができると、ほぼそういうことは解消されると聞いています。今、リチウムイオン電池の次の世代のものを使っていますが、電池の問題は今後五年以内に解消されると言われています。

黒　澤　「スマート農業」は想定よりもずっと早く拡大しています。最近のＧＰＳ利用の農機具も、道の農政部の調査では右上がりでものすごい角度で伸びています。だいたい一〇、〇〇〇台に近いというのが二九年度の数値ですが、実質はもっと多いのではないかと感じています。

内　田　個人で何軒かドローンを買った人の話は聞いています。あとは、Googleマップのような、我々農協職員が畑の状況がわかるようなものもあったら良いと、個人的に思います。

黒　澤　農協業務の改革にもなりますね。地域農研の調査課題で色々な農協を回ら

黒澤顧問

せてもらいましたが、農協の営農相談の担当の方が端末を持って、農家の圃場も全部見られるような、個人情報もみんな入っているタブレットを持って歩くような時代になってきています。かなり進んできているなという感じがします。

宇野さん、何かご意見は？

宇　野　　酪農に関して「スマート農業」では、私はFarmnoteというアプリを携帯で使っています。何社かそういうメーカーが出てきて、携帯で牛の管理ができます。牛の授精履歴などを一回一回見に行く必要がなく、携帯で今の状況を全てすぐに管理できています。授精・受胎したとか、発情があったとか、全部登録しておけるので、記入漏れもなくなりました。酪農では、そういう管理の仕方が非常に普及しているのを感じます。機械的、ハード的なものはロボット搾乳くらいしかないですが、頭数が多ければ多いほど、ITの導入に対するうまみが非常に高くなってきているのは感じています。

黒　澤　　お話をうかがっていると、新しい先端テクノロジーについて対応できる農家の方々も増えてきています。デジタルディバイド（情報格差）のように、使えない農家とものすごく階層分化している気がするのですが、高木さんのところではどうですか。

高　木　　実は一緒に営農している義父が入院したため、今年の小麦の播種を私が三分の二ほど行いました。うちもGPSを入れていますが、それがあることによって私でも、女性でもできる、経験者じゃなくてもできるというのが、すごく大きな利点でした。ようてい農協では去年三か所にGPSの基地局を設置し、ホクレンのサーバーから補正データを農家さんに提供しています。スマホで受けられるようなフリーソフトを入れていて、格安で利用できます。今回のブラックアウトでサーバーがアウトになると、それを利用している人は全員使えず、それで手動でやりました。

高木智美さん

黒　澤　　「サーバーがダウンする」という話に関連して、この間のブラックアウトの時、例えば工場が動かなくなるといったハードの部分だけではなくて、携帯電話も、

本体は電源があってもサーバー自体の電源が損傷を受けたら、全部ダメですよね。デジタル機器に完全に依存していて、それがダウンしたら大変なことになる。急に手作業体系に切り替えるといっても、それは上手くいかないですよね。

高　木　「あくまでも補助器具」という考えでいないと、完全に頼り切っているとダメだというように思います。メーカーもそこはもっと強く「あくまでも補助ですから」と言っていた方がいいと思います。

黒　澤　大変に興味・関心のある話になりましたけれども、宮入先生の講演の時間になりましたので、いったんこの意見交換の場を中断いたします。

【宮入教授の講演後に座談会を再開】

黒　澤　北海道農業の現況と課題、農協と地域の住民、そして農協組合員の制度と、多様な視点から明確な分析をしていただきました。今まであまり俎上になかった准組合員が、これからの農協の性格を考えていく場合には避けて通れないもので、それを積極的に取り入れて農協の活性化や北海道農業に役立てていくべきだという意味合いで、どちらかというと今まで比較的論点が注がれてこなかった部分にも日の目を当てて論議すべきだ、というご提言でした。多様な側面で明確な分析をしていただきましたので、大変に有益な勉強になりました。ありがとうございました。

いま宮入先生からご提議いただいことについて、モニターの方々から、「質問したい」「確認したい」ということを出していただきたいと思います。

高　木　地域別に見ると後志管内の准組合員数は全道的には低い方ですけれども、京極町は本当に少ないと思います。正組合員さんと准組合員さんで出資金の多い、少ないなどの差はあるのですか。

また、この「JA北海道大会」は各農協の組合長さんも出席されているのでしょうか。このような話は組合長レベルが知って、農協職員の方にもしっかり伝わっていないといけないと思いました。

黒　澤　最初の質問は正組合員の資格要件や出資金などについての質問が第一点。それから第二点目として、農協運営の責任者である組合長や役員と、農協職員の方々のこの問題についての認識と関与についての質問だったと思います。まず第一点目、宮入先生お願いします。

宮　入　各農協でそれぞれ正組合員としての資格要件や正組合員・准組合員の出資金の最低出資額や上限が決められています。

宮入　隆教授

黒　澤　二つ目の質問である役員とか組合員の方々、役職員の方々のＪＡ大会に関する認識の部分については、入江常務から説明してください。

入　江　大会へは理事・監事さん、幹部職員の方が参加しています。全部で二、四〇〇人くらいではないでしょうか。

入江常務

議案の組織討議は、農協の理事会で意見を聞いていると思います。生産部会長や青年・女性部の集まりに降ろして意見を聞くＪＡもあるでしょう。

「所得の二割アップ」や「五五〇万人のサポーターづくり」は三年前の大会決議を引き継いでいます。前回の大会を踏まえてそれぞれの農協の総会資料にそのことが大みだしとして書きこまれ、各農協の色々な事業が項目別に書かれていると思います。農協の総会資料で具体化をされていると思います。

黒　澤　組織討議をする段階では「主要な柱建てについては意見を下さい」として質問様式なんかも配られています。どの程度一般組合員の方が認識されているのか。内田さん、農協職員として、農協大会についての認識と、仲間内でざっくばらんに議論になっているようなことがあれば、ご紹介いただけますか。

内　田　今回の大会の内容については、まだ認識しておりませんでしたが、前回大会の「所得二〇％アップ」については、販売部で直接取引を増やし、手数料等をかけないで生産者に還元する取り組みを行っております。

黒　澤　ありがとうございました。

重要な話なので、モニターの方々が准組合員の方々に対してどのようなお考え、認

識をお持ちか、一人ずつ簡単にお願いします。

貞　広　農家をやめた人が引き続き准組合員になるというイメージを持っています。

黒　澤　大塚さん、どうですか。

大　塚　新篠津はわりと、旦那さんが正組合員で奥さんなどが准組合員というイメージが強いです。うちは両親や私も夫も正組合員です。出資金の関係だと思うんです。「正組合員になりましょう」という働きかけがあって、農協に出資して欲しいんだと思っていました。

黒　澤　中野さんはどうですか。

中　野　定期預金のキャンペーンをする時に、一般の人に対して「准組合員になりませんか」と働きかけていて、金融関係の利用のため准組合員になる人が多い印象があります。

黒　澤　宇野さんはどうですか。

宇　野　私のところも奥さんが准組合員というイメージです。入っている所も入っていない所もありますが。法人化している所は全部組合員です。

黒　澤　なるほど、わかりました。

宮入先生が提起して下さったように、農業者の暮らしと生産を守るという意味では、どれだけ理解者を増やすかが最大の眼目になっているので、いずれにせよ准組合員の方々と正組合員の方々が手を結んで、地域の人たちと、住民意識の部分も共闘しながら活動を活発化することの必要性は皆さんにご理解いただけたのではないかと思います。

次に、外国人の技能実習生について、皆さん方から質問なり地域の現状なりでありましたらお願いします。

大　塚　昨日のテレビの報道番組の特集で、ベトナムの日本語学校の人たちが、口々に「私たちは韓国に行きたいんだ」と言っているのです。韓国は「技能実習生」ではなくて「労働者」として受け入れているから、転職もできるし貰う給料も多いのです。日本では技能実習生として入れているから、受け入れ機関に、農家がお金を払わなくてはいけないので、そんなに給料を上げられません。韓国ではそういう中間機関がないから、たくさんお金も貰える。転職が三回まで認められているから、韓国の受け入れ先の中でも競争が働いていて、より良い受け入れ態勢にしようとしている。これではいずれ日本は他国との外国人実習

生の獲得競争に負けてしまうのではないかと感じました。そういう問題を含めて、日本の法律を変えて、先ほどのオペレーターの話もエンジニアとして外国人の方に頼っていくとか、そういうことが必要ではないかと思います。

また農協の役割として、農福連携や地域間の連携を農協の力で何とかならないかと思います。農家が直接障害者の方を雇用するのは難しいと思います。静岡県に農福連携ですごく成功している農業法人がありますが、「特例小会社」というものを大手の商社と連携して作っています。大きな会社は「二%まで障害者を雇用しなければならない」という法律があります。大きな会社ですと、二%でもかなりの人数になります。伊藤忠商事で特例子会社を作り、会社の中の障害者の人たちを集め、取りまとめて法人に派遣しています。その農業法人と伊藤忠商事で直接やりとりしてその特例子会社を作りましたが、こういうことを農協ができたらいいのではないかと思います。

地域間の連携では、小清水が西宇和（愛媛）と人のやりとりをしていますが、この間聞いた話では、北見も沖縄と一緒に冬季と夏季の人のやりとりをしているそうです。沖縄と北見では規模が違いすぎるため、結局北見からは人は行ったが、沖縄からは来なかったとのことでした。大規模な農家がたくさんいる九州など、対等にできる規模同士の所でやらないとだめなのかなと思います。「住む所はどうする」とか色々な問題があって、そういうことを農協に取り組んでいただければと思います。

黒　澤　小清水の農業労働力不足を愛媛から人を呼んでカバーするというレベルでは全然ありません。ただ、試行システムとしてそれが今立ち上がり、しかも関わっている生産者の方も農協職員の方も、非常に

良い評価をしている。単に労働力を補完し合うということではなくて、相互に農業者としての知見レベルを高める、という意味で非常に有効なシステムです。新たな農協間の広域連携のチャレンジとしていい事例ではないかと思います。

また、広域連携というのは必ずしも職員と農家の連携だけではなくて、例えば雇用労働者、「アルバイター」と府県で言われていますが、アルバイターが北海道、愛媛、沖縄、長野と点々と回る。その時に農協なり地域の関係機関が、そういう人たちをサポートすることはできないか。その役割を果たしているのが富良野のアグリプランで、愛媛の西宇和と連携してやっています。お互いに地域の農業を発信するという材料になると思います。

宮入先生の提起の中に色々なお話があって、農協がなくなれば地域が消滅するという、府県とは違った形で北海道の農協の意義・役割は大きなものがあると思います。その中で北海道は更に、単協機能で負えない部分を地区連が機能を果たしていると思います。北海道は連合会組織もしっかりしていますから、日本の農協のあるべき姿の先陣を切っていると、私たち農業関係者は誇っていいのではないかと思います。

色々な意味で先生から貴重なご提起をいただいたということで、この意見交換会を終えたいと思います。

伊　藤　一言お礼を申し上げます。

モニターの皆様、宮入先生には貴重なご意見をお聞かせ頂きました。誠にありがとうございます。

JA大会の決議をふまえた皆様からの貴重なご意見をいただき、また厳しい状況下でも皆さまが前向きに営農されていることを改めてお聞かせ頂きました。このことを踏まえながら、私どもこれからも皆様の元気を継続してお伝えしていきたいと思います。

伊藤専務